

IPM実践産地の紹介

ぎふクリーン農業の取り組みと
トマト黄化葉巻病対策
(西美濃農協 海津トマト部会の例)

岐阜県

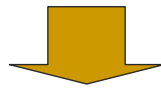
産地の紹介

- 場所 岐阜県海津市
県の南西に位置し、県内有数の農業地域
- 部会 海津トマト部会(70戸、26ha)
- 作物 冬春トマト(品種:桃太郎J、麗容)
部会全体で「ぎふクリーン農業」に取り組んでいる



ぎふクリーン農業とは

- 環境負荷の低減(化学肥料・化学農薬を30%削減)
- 有機物を有効活用した土づくり
- 化学農薬に変わる代替技術の導入(耕種的・物理的防除、生物農薬など)
- 病虫害の発生に応じた適期防除(予察情報の活用)
- 残留農薬の自主検査(安心・安全な農作物の提供)



人と環境にやさしい農業「ぎふクリーン農業」

平成11年より県独自にIPMを推進



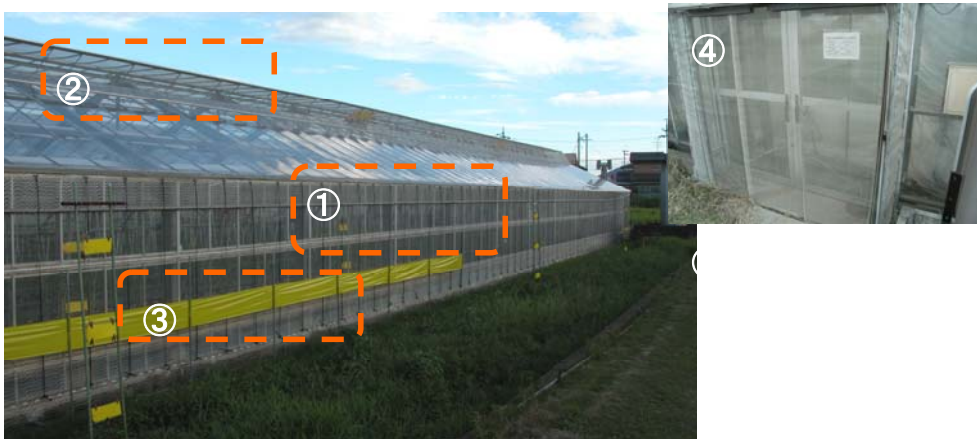
トマト黄化葉巻病(コナジラミ)対策

- 施設に入れない
施設の開口部に0.4mm防虫ネットを展張(天窗も)
施設周囲に黄色粘着テープを設置
出入り口に二重にネットを設置
施設周辺の除草
- 施設内で増やさない
施設内にも黄色粘着板を設置
定植時に必ず粒剤処理
密度が低い時期に防除
バイオタイプQ対策として、薬剤の選定に注意する
- 施設から出さない
栽培終了後に施設内を蒸し込む(晴天で3日間)

部会全体でコナジラミ対策を実施し、地域全体で被害を低減

コナジラミの侵入防止対策

- 侵入防止対策により、発病株率は数パーセントに抑えられる
- ネットの目合いが細かいため、他の害虫の侵入・マルハナバチの逃避も防げる



- ①側窓に0.4mm防虫ネット
- ②天窗にも0.4mm防虫ネット
- ③側窓付近に黄色粘着テープ
- ④出入り口のネットを二重に設置
など

生産物の扱われ方

- 残留農薬の自主検査により安全性をアピール
- 生産物に栽培上の特徴などを表示して販売
- 市場出荷、スーパーなどで販売



ぎふクリーン農業	
農薬・化学肥料を30%以上削減して栽培しました。	
農産物名	〇〇〇〇
栽培上の特徴	※性フェロモン使用、アイガモ稲作、天敵使用等を記載する。
生産者名	〇〇〇〇 TEL000-000-0000
生産登録番号	〇〇〇〇
生産地名	岐阜県〇〇郡〇〇町〇〇

▲30%削減の栽培管理票



【今後の課題】

● 栽培上の課題

- 全面に0.4mm目ネットを展張すると、施設内の温度・湿度が上昇する(病気が発生しやすくなる)
- 他の作物も含めて、地域内でコナジラミ対策を行うことが必要
- 資材高騰により、ネットの張り替え費用が増加

● 販売上の課題

- 消費者は、農薬使用量が少ないほど安心・安全といったイメージを持っている
- IPMによる環境負荷の低減についてもアピールが必要
- 安心・安全は当然であるため、販売上の付加価値はつけにくい